

健康寿命日本一を達成するとともに、高齢者や障害者を含む誰もが健やかに暮らせる地域づくりを進めます。

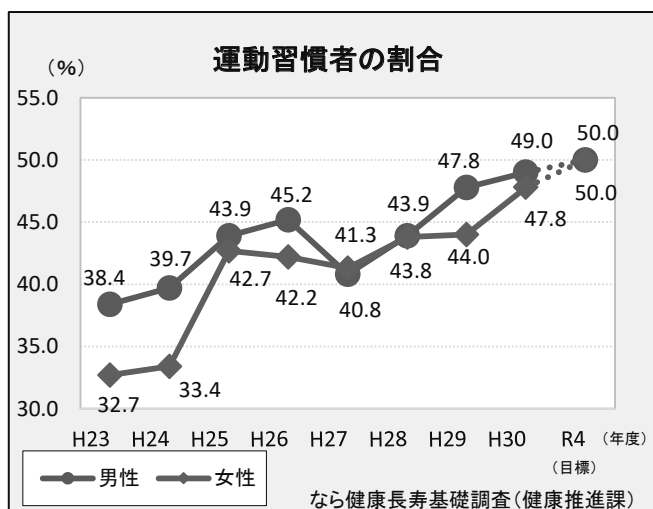
## だれもが、いつでも、どこでも、スポーツに親しめる環境づくり

### 目指す姿

令和4(2022)年度までに、運動習慣者(1日合計30分以上の運動・スポーツを週2日以上実施している人)の割合を50%以上に増やします。

主担当部局(長)名  
くらし創造部長 榎田 斉志

## 1. 政策目標(目指す姿)達成に向けた進捗状況

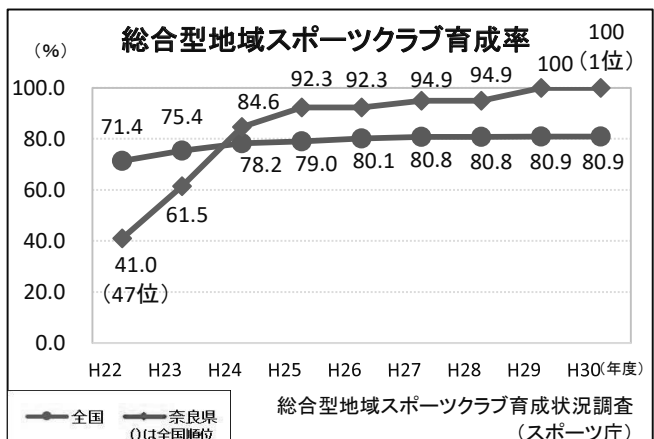
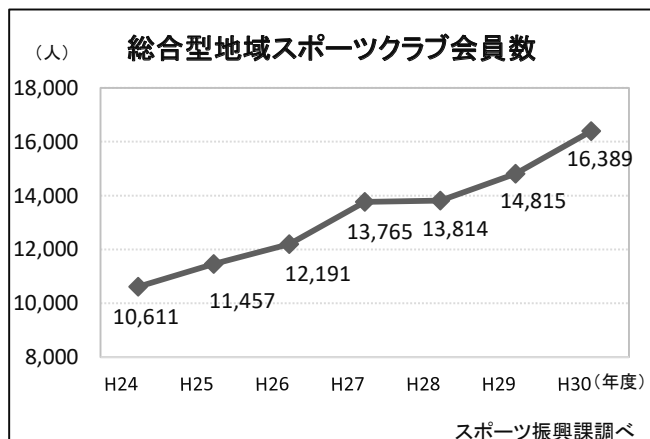


運動習慣者(1日合計30分以上の運動・スポーツを週2日以上実施している人)の割合 (%)					
	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
指標 男性	38.4	↑ 10.6 ポイント	49.0	91.4%	50
	H23 (2011)		H30 (2018)	7 11 年目	R4 (2022)
女性	32.7	↑ 15.1 ポイント	47.8	87.3%	50
	H23 (2011)		H30 (2018)	7 11 年目	R4 (2022)

進捗状況

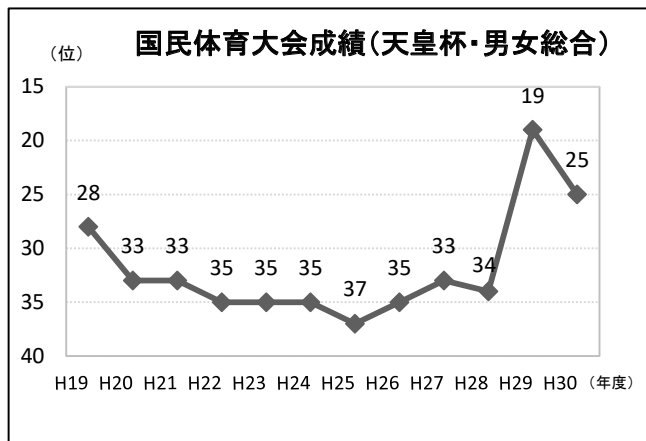
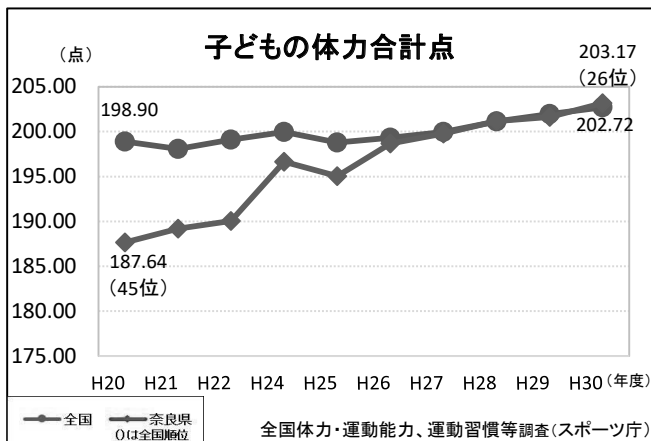
奈良マラソンをはじめとするスポーツイベントや橿原公園におけるナイトランの継続的な実施など、運動・スポーツを楽しむ環境や機会の提供に取り組んだこと等により、平成30年度の運動習慣者の割合は、特に高齢者世代で上昇し、男性が49.0%、女性が47.8%と、平成29年度を上回り、目標に向かって順調に進捗しています。

## 2. 現状分析



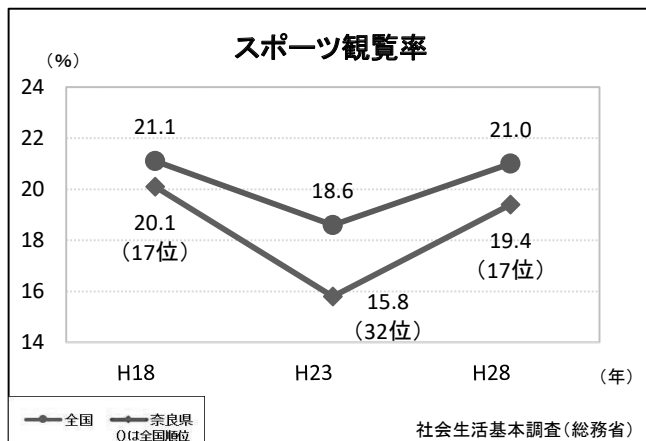
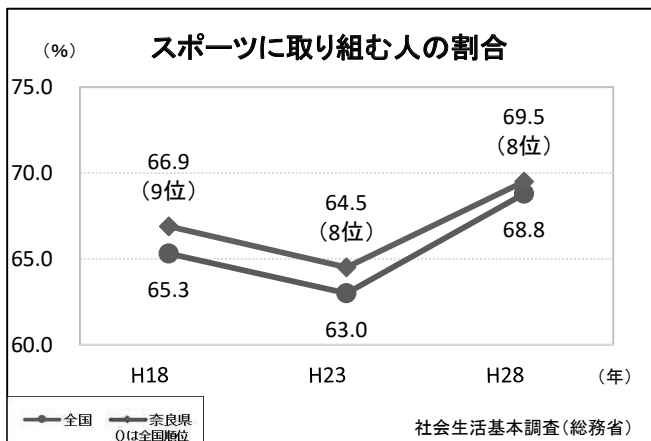
総合型地域スポーツクラブ会員数は、平成24年度の10,611人から年々増加し、平成30年度には16,389人となりました。(→戦略1)

総合型地域スポーツクラブ育成率は、県内全市町村にクラブが設立されたことで平成29年度に100%となりました。100%となっているのは本県を含めて8県です。(→戦略1)



奈良県の子どもの体力合計点は年々増加しており、平成30年度には全国26位(小学5年生:男子32位、女子36位、中学2年生:男子13位、女子28位)を記録し、全国平均を僅かに上回りました。(→戦略1)

競技力向上の取組により、30位代と低迷していた国民体育大会の成績が、平成29年度以降上昇しています。(→戦略1)



平成28年のスポーツに取り組む人の割合は、平成18年と比較して2.6ポイント上昇しており、全国平均を上回っています。(→戦略1,2)

平成28年のスポーツ観覧率は全国17位であり、全国平均よりも低い率で推移しています。(→戦略2)

### 3. 平成29年度の評価及び平成30年度の取組等を踏まえ、令和元年度に向けて見直した内容

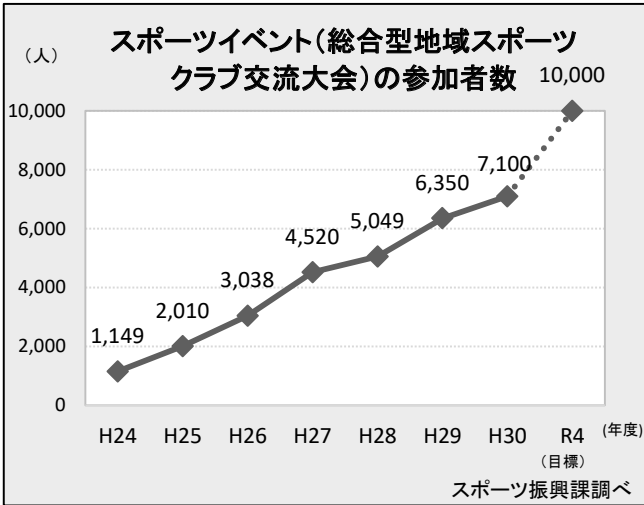
国民体育大会を想定したスポーツ施設のあり方を検討し、市町村、企業等と連携しながら、県全域におけるスポーツ拠点施設の中長期的な整備に関するビジョンを策定・推進します。また、東京2020オリンピック・パラリンピックやワールドマスターズゲームズ2021関西などの国際イベントを活用し、県民がスポーツへの関心を高める機会を創出するとともに、スポーツを通じた国内外との交流拡大を促進します。年間を通して県内各地で開催するスポーツイベントでは、アンケート等をもとに参加者やボランティアのニーズに応じたイベント内容の見直しやサービスの改善を図ります。

#### 4. 戦略目標達成に向けた進捗状況

戦略1 ライフステージ・ライフスタイルに応じたスポーツの推進を図ります。

主担当課(長)名  
スポーツ振興課長 木村 茂和

#### 戦略目標



指標①	スポーツイベント(総合型地域スポーツクラブ交流大会)の参加者数(人)				
	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
	1,149	↑	7,100	67.2%	10,000
	H24 (2012)	5,951 人	H30 (2018)	6/10 年目	R4 (2022)

進捗状況  
県内の総合型地域スポーツクラブの活動が活発化してきたこと等により、スポーツイベントの参加者数は、平成24年度の1,149人から年々増加し、平成30年度には7,100人が参加しています。引き続き、県内の総合型地域スポーツクラブへの支援を行うことで、目標の達成を目指します。

指標	進捗状況	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
② プロスポーツ等の試合数(試合)	プロスポーツチーム等との連携等により、試合数は増加傾向にあり、目標に向かって順調に進捗しています。	5	↑	53	87.3%	60
		H24 (2012)	48 試合	H30 (2018)	6/10 年目	R4 (2022)
③ 榎原公苑年間利用者数(人)	スポーツ施設の整備及び広報等に取り組んだ結果、実績値は335,560人となり、目標を4年早く達成しました。	301,330	↑	335,560	119.4%	330,000
		H24 (2012)	34,230 人	H30 (2018)	6/10 年目	R4 (2022)

#### 主な取組指標等

総合型地域スポーツクラブによる地域スポーツの推進(①)		
総合型地域スポーツクラブ数[累計](クラブ)		
56	↑	66
H25年度(2013)	10 クラブ	H30年度(2018)

トップアスリート等との連携によるスポーツの推進(①、②)		
プロスポーツ選手によるスポーツ教室参加者数(人)		
1,525	↑	7,623
H25年度(2013)	5.0 倍	H30年度(2018)

スポーツ施設の整備・活用(①、③)		
榎原公苑におけるナイトラン参加者数(人)		
25,632	↑	27,919
H25年度(2013)	8.9 %	H30年度(2018)

#### 目標達成に向けた成果

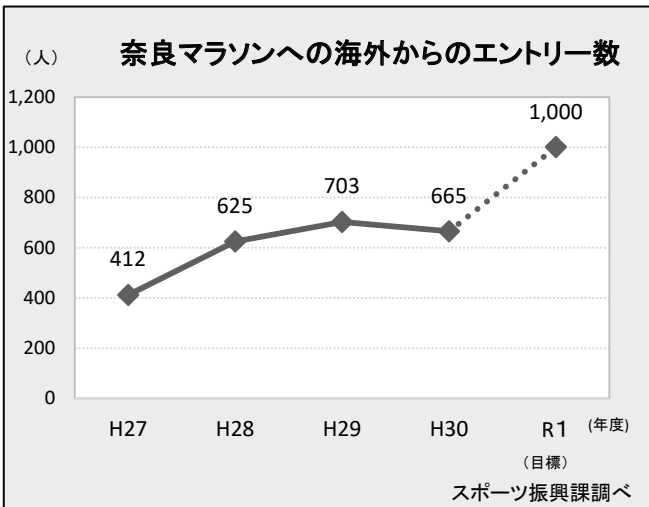
運動・スポーツをする環境の整備を推進するため、奈良県フットボールセンターの拡充整備を支援し、平成30年6月に2面目の人工芝ピッチがオープンしました。(③)

平成29年度に1園でモデル実施し、その結果をもとに改良を行った「幼児運動・スポーツプログラム」の普及拡大のため、平成30年度には県内12の園・所で同プログラムをモデル実施しました。(①)

戦略2 参加型スポーツイベントの開催やスポーツツーリズムの展開により、地域への誘客を促進するなど、スポーツを通じた地域振興を図ります。

主担当課(長)名  
スポーツ振興課長 木村 茂和

**戦略目標**



指標①	奈良マラソンへの海外からのエントリー数(人)				
	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
	412	↑	665	43.0%	1,000
進捗状況	H27 (2015)	253人	H30 (2018)	$\frac{3}{4}$ 年目	R1 (2019)
	海外ランナーに向けた広報活動や、外国人向けツアーの充実等の取組によって、海外ランナーのエントリー数は増加傾向にあります。今後もイベント周知施設や、ホームページの対応言語を増やすなど、更なる広報の充実を図ります。				

指標	進捗状況	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
②	スポーツ合宿でスイムピア奈良を利用する人数(人)	2,179	↑	3,189	123.0%	3,000
	オリンピックの事前合宿や、障がい者水泳選手の育成合宿等で、平成30年度は3,189人が合宿利用し、目標を4年早く達成しました。	H27 (2015)	1,010人	H30 (2018)	$\frac{3}{7}$ 年目	R4 (2022)
③	国際大会の事前キャンプ地招致件数(件) (東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会)	/		3件登録	累計3件登録	R2に5件以上招致
	スポーツによる国際交流の取組を進めてきた結果、3市が東京オリンピック出場チームの事前キャンプ地として決定しました。			H30 (2018)		

**主な取組指標等**

参加型スポーツイベントの実施(①)		
奈良マラソンへの奈良県民エントリー人数(人)		
7,096	↑	8,041
H25年度 (2013)	13.3%	H30年度 (2018)

スポーツツーリズムの推進(①)		
サイクルスポーツイベント、アウトドアチャレンジレースへの参加者数(人)		
2,100	↑	2,124
H26年度 (2014)	1.1%	H30年度 (2018)

**目標達成に向けた成果**

平成31年1月に「東京2020オリンピック聖火リレー奈良県実行委員会」を設立し、オリンピック聖火リレーのルートやセレブレーション会場の選定を行いました。(③)

「ワールドマスターズゲームズ2021関西」奈良県実行委員会において、基本計画(県内で開催する綱引とカヌー(スプリント)の競技開催日程、種別、募集定員など)の策定に取り組みました。

5. 令和2年度に向けた課題の明確化

目指す姿(再掲)

令和4(2022)年度までに、運動習慣者(1日合計30分以上の運動・スポーツを週2日以上実施している人)の割合を50%以上に増やします。

＜奈良県の持っている強み＞

- 1 平成30年度の奈良マラソン出走者数は11,906人(フルマラソン)となっており、地域のイベントとして定着
- 2 奈良マラソンは、名所を巡るコース設定や、ボランティアによるおもてなし、沿道からの応援について、参加ランナーから評価が高い
- 3 奈良県は、豊かな自然、起伏のある地勢、美しい風景や歴史的な景観、文化財をはじめとする観光資源等が豊富
- 4 総合型地域スポーツクラブ育成率100%

＜奈良県の抱えている弱み＞

- 5 青壮年期(20～64歳)の運動習慣のある人の割合が低い
- 6 プロスポーツ観戦に行く人の割合が低い
- 7 大きなスポーツイベントを招致できる施設が不足
- 8 キッズ・ジュニア期からの選手強化体制・施設が整っていない
- 9 プロスポーツチームが少ない
- 10 奈良県を拠点にする実業団チームが少なく、能力を持った高校生・大学生が県外に流出

＜奈良県への追い風＞

- a ウォーキングやジョギング、サイクリング等健康づくりが全国的なブーム
- b リオオリンピック、パラリンピック等で奈良県ゆかりの選手が活躍
- c ラグビーワールドカップ2019の日本開催及び、試合会場として近隣の東大阪市、神戸市が決定
- d 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催
- e ワールドマスターズゲームズ2021関西の開催と、県内市町村においても、競技大会の開催が決定
- f スポーツツーリズムへの関心の高まりとともに、国においても観光立国の実現に向けた取組を積極的に推進

＜奈良県への向かい風＞

- g 趣味・趣向の多様化
- h 移動手段等の利便性の向上による運動不足
- i 子どもの外遊びの機会が減少
- j 各都道府県・市町村も市民参加型のスポーツイベントに力を入れた結果、県外で類似のイベントが増加
- k スポーツ施設の老朽化

＜強みで追い風を活かす課題＞

- [重要課題]東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地招致・交流推進(3,b,c,d)
- [重要課題]総合型地域スポーツクラブの活性化(4,a)
- ・参加型スポーツイベントの実施(1,2,3,4,a,f)
  - ・スポーツツーリズムの推進(1,2,3,a,e,f)

＜強みで向かい風を克服する課題＞

- ・自然、地勢、景観、歴史等、奈良県の特性を活かした奈良らしいスポーツイベントの開催(3,g,h,i,j)

＜弱みを踏まえ追い風を活かす課題＞

- ・東京オリンピック・パラリンピックに向けたジュニア・トップアスリート育成(8,10,b,d)
- [重要課題]幼児向け運動・スポーツプログラムの普及促進(8,a)
- ・トップアスリートを活用したスポーツイベントの実施(6,7,9,b)
- ・青壮年期の運動・スポーツへの誘導(5,6,7,9,a,c,d,e)

＜弱みを踏まえ向かい風に備える課題＞

- [重要課題]中長期的な視点からの県内スポーツ施設の整備・運営の検討・推進(7,8,10,g,i,k)
- ・国体開催に向けたスポーツ施設等の環境整備(7,8,k)

## 6. 平成30年度の評価及び令和元年度の取組等を踏まえた、令和2年度以降の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地招致・交流推進(戦略2)	東京2020オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ地として、香港・エジプト・ウクライナの競技チームを奈良県で受け入れることが決定しており、キャンプを契機とした、スポーツによる国際交流等を更に推進します。
総合型地域スポーツクラブの活性化(戦略1)	総合型地域スポーツクラブは、全市町村で設立され、育成率は100%を達成しました。今後は、クラブの自立的な運営に向け、質的な充実に重点を置いた支援を行います。
弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
幼児向け運動・スポーツプログラムの普及促進(戦略1)	平成28年度に策定したプログラムを基に、平成29年度に1園、平成30年度に12園・所でモデル実践をしてきました。今後は、今年度作成する実践マニュアルやDVDを活用し、全県的にプログラム普及を促進します。

## 7. 平成30年度の評価及び令和元年度の取組等を踏まえ、令和2年度以降に見直す内容

弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
中長期的な視点からの県内スポーツ施設の整備・運営の検討・推進(戦略1)	2030年頃の国体開催に向けて、中長期的な視点でスポーツ拠点施設整備構想を策定・推進します。